

# まちの話題

このページでは、市民の皆さんの活躍やまちの話題などを紹介しています。身近な話題や、広報紙についての意見を、秘書広報課までお寄せください。



音楽劇を披露する団員

## 伸びやかな歌声響く

### 市青少年合唱団 定期発表会



合唱ステージの様子

4月19日、八幡市青少年合唱団第45回定期発表会が文化センター小ホールで開催。団員が、明るく伸びやかな歌声を会場いっぱいに響かせました。本発表会は、1年間の練習の成果を披露する場として毎年行われています。

第1部では、オリジナル音楽劇を上演。ペットとの別れをきっかけに、塞ぎ込んでしまった主人公・なっちゃんが家族や友人の励ましで大切な思い出を取り戻していく物語を、アニメーション映画「リ

メンバー・ミー」の楽曲とともに表現。犬や猫に扮した団員たちが、表情豊かな演技と歌で物語を彩りました。

第2部では、フランス出身の合唱団指導員・ジョルダ先生の指導のもと、フランス語の楽曲も披露。観客と共に手拍子や輪唱に挑戦し、会場が一体感に包まれました。

第3部の合唱ステージでは、「思い出がいっぱい」や「夢をかなえてドラえもん」など計4曲を元気よく歌い上げ、観客からあたたかな拍手が送られました。

## 「いっぱい食べた 明日も楽しみ」

### 初めての給食

4月15日、市内の小学校で1年生の給食がスタートし、児童たちはクラスの友達とともに、初めての給食の時間を迎えました。

この日の献立は、鶏肉のからあげ、とうふのすまし汁、わかめご飯、牛乳です。

はじめに、給食を準備するときのルールなどについて勉強。食物アレルギーへの配慮、配膳の手順などを学びました。友達それぞれに違いがあることや、安全に気を付けて準備することの大切さについて説明を受け、先生からの問いかけにも積極的に手を挙げ、発言する姿が見られました。

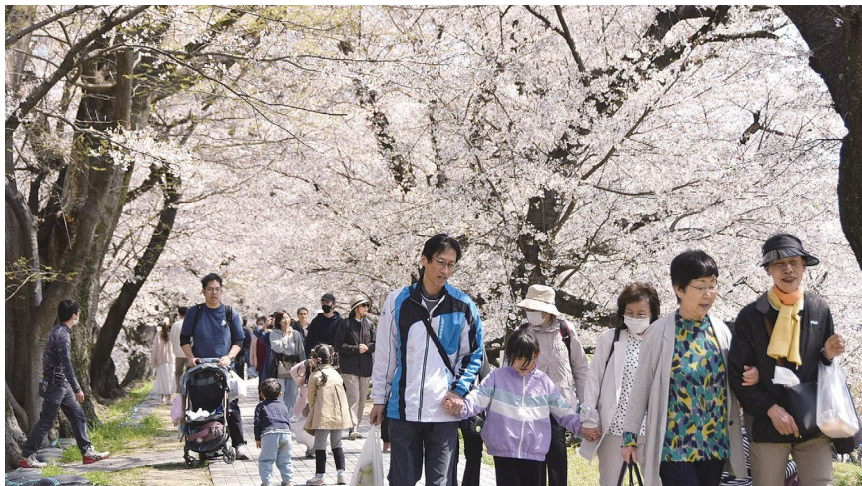
初めての給食を味わう児童たち（くすのき小学校）



全員分の給食がそろると、「いただきます」のあいさつで食事がスタート。おいしそうに頬張る姿や、笑顔でおかわりをする様子が見られました。

ドオ・バオ・アンちゃん(6)は、「おいしくていっぱい食べた。明日の給食も楽しみ」とこれからの給食に期待をふくらませていました。

桜並木を歩く来園者たち



## 桜のトンネルで 春のひととき

淀川河川公園背割堤地区の桜の見頃に合わせ、「京都やわた背割堤さくらまつり」が3月28日から4月5日まで開催。約1.4km続くソメイヨシノの桜並木をひと目見ようと市内外から多くの花見客が来園しました。

来園者は、満開の桜のもとで記念撮影をしたり、約40店舗が出店したさくらマルシェで屋台グルメを堪能したりと思い思いに春のひ

とときを過ごす様子が見られました。

また、高さ約25mのさくらであり館展望塔や、ガイドの説明を聞きながらめぐる「桜のお話ツアー」、船上から花見ができる「さくらであいクルーズ」「お花見船Eボート」も運航され、多様な視点から桜を楽しむ来園者の姿が見受けられました。

さらに今年にはさくらであり館イベント広場「淀」にて、草のものづくりや子どもの着付け体験など、日替わりイベントが行われ、家族連れでにぎわいました。

## 今月のこの人

### 令和8年度 八幡市新規採用職員

## 文化財を守り、活かし、伝える



令和8年度八幡市新規採用職員（学芸員）。市内在住。

### 中磨夏海さん

「文化財は当時の人々の営みが透けて見える。そこに人間味が感じられることが大きな魅力」と話すのは、4月に八幡市役所に入庁した学芸員・中磨夏海さん。

中磨さんは大分県出身。中学生の授業で歴史に興味を持ち、修学旅行先の京都や奈良で数々の文化財に触れ「関西で歴史を深く学びたい」と関西地方の大学に入学。特に文献史料の研究を好み、八幡

神に関する研究成果等をまとめてきました。

八幡市に入庁した理由も大分県にある八幡社の総本宮・宇佐神宮の研究を進める中で、石清水八幡宮との関わりを知り「強い縁を感じたことがきっかけ」と振り返ります。

今後は文化財の記録、保存、調査研究等の業務に携わります。「文化財を守るだけでなく、活かし、伝えていくことが大切」と「歴史の面白さを多くの人に知ってもらいたい」と、先人たちが遺した史料を読み解き、隠れた物語や当時の人々の息遣いを伝えていきます。

本コーナーでは、市にゆかりのある人物や団体を紹介しています。詳しくは、市ホームページまたは秘書広報課へ。